

福祉保健常任委員会

番 号	令 8 ・ 14 号	受理月日	令和 8 年 8 月 28 日	付託月日	令和 8 年 9 月 17 日
件 名	排泄に課題を抱える障害者の日常生活用具へ排泄予測支援機器の追加認定についての陳情				
請 願 者					
紹介議員					
1 陳情の要旨 世田谷区内に居住する排泄に課題を抱える障害児・障害者およびそのご家族が、日々の排泄にまつわる不安から解放され、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、世田谷区において、排泄予測支援機器「DFree」を日常生活用具として追加認定いただきたい。 ※「DFree」は令和 4 年 4 月に特定福祉用具認定され、介護保険適用である。 2 陳情の理由 (1) 令和 6 年 3 月の障害者保健福祉関係主管課長会議資料「日常生活用具給付等事業の適正な実施について」には、「日常生活用具給付等事業については、その事業費が年々増加傾向にあり、今後も安定した事業運営を行うためには各市町村において効果的・効率的な事業実施が図られる必要がある。また、当該団体者等からは、一部の市町村においては、長期間にわたり種目や基準額等の見直しが行われていない状況にあるとの声も寄せられているところである。このため、各市町村においては定期的に当事者の意見を聴取によるニーズ把握や実勢価格の調査等、地域の実情に即した適切な種目や基準額となるよう定期的な見直しに努められたい」と記載がある。 (2) 世田谷区は、これまで区民の参加と協働を区政運営の基本に据え、当事者の声に耳を傾けながら福祉施策を積み重ねてきた自治体である。排泄に関する困難は、本人					

の身体的・精神的な負担にとどまらず、家族による日々のトイレ誘導やオムツ交換の負担、外出・通学・通所への影響など、生活全般に波及する切実な課題でありながら、その性質上、当事者や家族が周囲に打ち明けにくく、支援の必要性が表面化しにくい領域でもある。本陳情は、区内で暮らす当事者とその家族の実際の声に基づくものであり、国の主管課長会議資料が各市町村に求める「当事者の意見の聴取によるニーズ把握」と「地域の実情に即した種目の定期的な見直し」を、世田谷区がまさに実践する機会である。「DFree」は、超音波センサーにより膀胱内の尿量を客観的な数値として可視化し、排泄のタイミングを本人や介助者に通知することで、こうした負担を本質的に軽減する機器である。都内では既に港区、板橋区および品川区において日常生活用具としての追加認定が行われており、認定の動きは全国の自治体へ着実に広がっている。区民の声に向き合い続けてきた世田谷区においてこそ、本機器の早急な追加認定が強く望まれる。

(3) 排泄予測支援機器「DFree」は超音波センサーにより膀胱を経時的にモニタリングし、膀胱内の尿の溜まり具合を0～10で数値化が行われる。その数値は専用タブレットやスマートフォンで確認でき、排尿のタイミングを予測し排尿機会を本人または介助者に通知することが可能。「DFree」を装着し、通知のタイミングで声かけを行うことで、感覚や時間でトイレ誘導をするのではなく、膀胱に尿が溜まったタイミングで声かけを行える。完全にトイレで排泄できる段階までは成功していないが、中長期的に活用することで、本人が通知を元に（尿意を感じて）トイレへの訴えができるようになるのではと期待をしている。このように「DFree」は適切なタイミングで尿意を感じることができない障害者にとって非常に有用である。排泄に悩みを抱える障害者が負担少なく購入できるよう、排泄予測支援機器「DFree」を日常生活用具として追加認定いただきたい。